

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

## 実りある2学期になるよう、自分を演出しよう

夏休み中に大きな病気やけがをした生徒もなく、第2学期が始まりました。出席率が91%とやや低めだったのは残念ですが、元気な挨拶（あいさつ）をして登校し、節度ある態度で始業式に臨むことができた生徒が多く、いいスタートを切ることができました。

始業式では、リオオリンピックの感動を大切にしてほしいと述べた後、次のように続けました。

2学期の「人生は、自分で演出できる」と言った女優さんがいます。「演出」とは、俳優・役者さんに、演技指導をすることです。その場面で、どう行動し、どういう人物を演じるのかは、映画や舞台の場合は、映画監督や演出家が考えて演じさせるのですが、人生では自分でそれができるのだというのです。

卓球女子団体の3位決定戦を見た人は、一緒に思い出してください。福原愛選手は、その前の決勝進出が懸（か）かった大事な試合で敗れ、さらに、この3位決定戦の最初の試合で敗れてしまいます。3人の選手のリーダーとしての強い自覚と決意で大会に臨んだにもかかわらず、結果としてチームの足を引っ張ってしまったのです。皆さんだったらどうしていたでしょうか？ 福原選手は、石川佳純（かすみ）選手や伊藤美誠（みも）選手に申し訳ない気持ちでいっぱいだったに違いありませんが、その気持ちに押しつぶされることなく、必死に応援し、励ましやアドバイスを送り続けたのでした。銅メダルを獲得して、その胸の内を明かした福原選手は、「今までで一番苦しいオリンピックでした。」と言っています。その苦しさの中で、自分のあるべき姿を考え、行動を選択し、そして実行したのです。結果は思うようになりませんが、そこでどうふるまうかは自分の思うようにふるまえるのです。その必死な姿が多くの人々の心を打ったばかりでなく、銅メダルにもつながりました。

例えば、こうして校長の話をごどんな態度で聞いて、どんな決意を持つかというのも演出できます。朝、友達に「おはよう」とあいさつするときに、どんな表情で、どんな声で伝えるのかも演出です。先生に叱（しか）られたときに、どんな態度で聞き、その後どのようにふるまうのかも自分で演出できるのです。さらには、将来、希望どおりの職業に就（つ）いたのに、うまく気持ちが通じ合えない人と一緒に仕事をしなければならなくなったとしましょう。そのとき、その職場をやめてしまうのか、相手となるべくかわらないようにして自分に分担された仕事だけをするのか、それとも、いつか分かり合えることを信じて、たとえ冷たくあしらわれたとしても相手の心を大事にして関わるなどの選択肢もあるでしょう。こうして自分を演出しながら、あなたを主人公にした自分の物語が編（あ）まれていくのです。あなたは、どんな自分を演出するのでしょうか？ 自分のあるべき姿をどう思い描き、どんな行動を選択して、するのでしょうか。

第2学期は、進路希望の実現や部活動の大会やコンクールへの挑戦、松明あかしや校内文化祭での自己実現など、どんな自分でありたいかを意識し、それに自分を近づけるために、自分をどう演出するかという機会はたくさんあるはず。まず自分が納得（なっとく）できるいい演出を期待しています。

「教師は役者であれ」という戒めもあります。私もより良い教師を目指して自分を演出していきたいと思えます。

### 教師は、五「者」たれ

- 一 学者であれ  
 専門分野の学問に精通する。
- 二 医者であれ  
 生徒を看（み）て、心身の状態を把握する。
- 三 易者であれ  
 生徒の適性を見抜き、進路の助言をする。
- 四 役者であれ  
 授業などに生徒を引き付け夢中にさせる。
- 五 芸者であれ  
 一芸は百芸に通ず。一芸に秀でる。

## 少年の主張大会で優良賞 両親へのストレートな感謝の気持ち



8月4日(木)、須賀川市文化センターにおいて、須賀川市明るいまちづくりの会などの主催による第13回少年の主張大会が行われ、本校から3年 佐藤仁美さんが出場し優良賞をいただきました。

佐藤さんは、これまでお父さん、お母さんに「ありがとう」の一言が言えなかった思春期の心情を吐露(とろ)し、壇上(だんじょう)から初めての「ありがとう」を大きな声でこう伝えました。

私は、今までのたくさんの感謝の気持ちを込めて、世界中の人たちに聞こえるくらい大きな声で言いたい。「お父さん、お母さん、いつもありがとう。これからも、こんな私をよろしくお願いします。」

学区外通学で本校バスケットボール部に所属、陸上競技や駅伝競走の練習にも精一杯参加した佐藤さん。部活動を引退した今、朝晩送り迎えを欠かしたことの無い両親、県内・県外の遠征にも必ず随伴(ずいはん)し、賄(まかない)などの雑用も行ってくれた姿に「陰で見守り、一度も見捨てることなく精一杯育ててくれている」親の愛情を見だします。そして、「ありがとう」を伝えられるようになった自分を「気持ちがいっしょに強くなった」と受け止めるようになりました。

## アクリルたわしの使い勝手は？



3年生は、1学期の家庭科の授業でアクリルたわしを作りました。炊事後の洗い物などに利用できるよう夏休み前に製作し、家庭に持ち帰らせたのですが、使い勝手はどうだったのでしょうか？また、利用したのは親御さんだったのでしょうか、生徒だったのでしょうか？

## 新しい栄養技師、着任

本年度は、学校給食を担当する栄養技師が引き上げとなっていました。加配が認められ、新たに中田直美(なかだ・なおみ)が8月1日付けで着任しました。初めての中学校勤務ですが、母校に赴任して生徒



と積極的にコミュニケーションを図るなど、張り切って勤務しています。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

## 岩瀬地区PTA連合会から西間木前PTA会長ら4名表彰

8月7日(日)、須賀川市文化センターで第51回岩瀬地区PTA研究大会が開催され、本校から下記4名の方が表彰され、個人表彰者を代表してステージ上で西間木前PTA会長さんに表彰状が授与されました。これまでのご功績に対し改めまして心より感謝申し上げます。

西間木ひろみ様 鈴木 洋二様 天倉めぐみ様 影山信一様

また、鮫川村にあるNPO法人 明日飛(あすひ) 子ども自立の里理事長 清水 国明氏による「子どもたちに魔法の杖を～子供の自立と親の心がけ～」と題するご講演を拝聴(はいちょう)することができました。床の上に平均台の幅と同じラインを引いてその上を歩かせるとはみ出さずに歩けるのに、平均台が高ければ高いほど怖くなり、かえって落下してしまいます。氏によれば、「魔法の杖」とは自分に対する信頼感で、それを手に入れることで子どもたちは自立に向かうと言います。子どもを取り巻く環境が変化し、魔法の杖を手に入れるのは難しい時代になってきています。講演の後半では、親子で魔法の杖をはぐくむゲームなどを紹介いただき、有意義な時間を過ごすことができました。

本校ホームページでもご覧いただけます。アドレス[http://www.sukagawa.gr.fks.ed.jp/?page\\_id=196](http://www.sukagawa.gr.fks.ed.jp/?page_id=196)